

◎ 本日の卓話 10月6日(火)

「ゼロから上場まで！ ～新しい農産物流通への挑戦～」

株式会社農業総合研究所
代表取締役会長CEO 及 川 智 正 さん

◎ 次週の卓話 10月13日(火)

「外部卓話」

公益財団法人 関西・大阪21世紀協会
常務理事 酒 徳 俊 夫 さん

◎ 先週の例会記録

- ✳ロータリーソング 日も風も星も
- ✳ビ ジ タ ー 紹 介 なし
- ✳出 席 報 告 (会員数78名、免除会員3名) 本日出席(9/29) 58名 76.32%
- ✳メ イ キ ャ ッ プ 和アゼリアへ2名、地区へ3名
- ✳S. A. A. 林 俊行さん、中谷友紀さん、秦 崇さん、岩西智宏さん、福地達明さん、川崎 悟さん、
(ニコニコ箱) 紀 俊崇さん、中野智一さん、仁保有二さん、細川陽介さん、匿名

本日合計 ￥30,500 今年度累計額 ￥617,000

- (財団寄付献金箱) 林 俊行さん、中谷友紀さん、秦 崇さん、岩西智宏さん、福地達明さん
- (米山奨学会献金箱) 林 俊行さん、中谷友紀さん、秦 崇さん、岩西智宏さん、福地達明さん、川崎 悟さん
- (青少年育成奨励金) 林 俊行さん、中谷友紀さん、秦 崇さん、岩西智宏さん、福地達明さん

10月は 経済と地域社会の発展月間
米 山 月 間

◎ 会長あいさつ

会 長 林 俊 行



先日、有田川町で男性がクマに襲われ、けがをされたとの報道がありました。被害に遭われた方に心よりお見舞い申し上げます。このニュースを受け、改めて人間と自然の共存について考えました。

私自身も、名草山を散策中、突然大きな鳴き声とともにイノシシの親子が足元から現れ、腰を抜きそうになったことがあります。また、スズメバチに追われたり、自転車で大きな雄シカとぶつかりそうになったり、野犬の群れに追われた経験もあります。

人の安全を守ることが第一ですが、動物にとっては、そこがもともとの生活の場なのかもしれません。人間も生態系の一部であることを忘れず、安全と豊かな自然を次世代へ残していくことも、地域への奉仕の一つではないかと感じました。



誕生日お祝い

幹 事 報 告

- 例会変更のお知らせ (和歌山東RC、和歌山南RC、和歌山東南RC、和歌山北RC、有田RC、高野山RC、田辺東RC、那智勝浦RC)
- 9/17 市内9RC会長幹事会報告
協議事項 (花いっぱい推進協議会への協賛金贈呈、熊本地震義捐金、IM告知など)
- 9/17 市内9RCにて市長訪問 報告
- 本日例会終了後、第3回創立90周年実行特別委員会

10月プログラム予定

和歌山ロータリークラブ
出席・プログラム委員会

10月	タ イ ト ル	卓 話 者
6日	「ゼロから上場まで！ ～新しい農産物流通への挑戦～」	株式会社農業総合研究所 代表取締役会長CEO 及 川 智 正 さん
13日	「外部卓話」	公益財団法人 関西・大阪21世紀協会 常務理事 酒 徳 俊 夫 さん
20日	「コミュニケーションで 築く信頼～激変の時代にも不変なものは 伝える・つながることの大切さ～」	株式会社トゥルース マナーOJTインストラクター 須志田幸代さん
27日	「米山月間に ちなんで」	第2640地区 米山記念奨学委員会 副委員長 辻 政 秀 さん



9月17日(木) 10:00～ 和歌山市内9RC会長・幹事会で
和歌山市長表敬訪問

委員会報告



2026-27年度 青少年育成奨励金 上半期報告(Zoom)

担当：青少年育成奨励特別委員会
松尾 泰明 委員長



よし むら み く
吉村 美紅さん
同志社大学1年
ローイング



青少年奉仕委員会
慈 幸 信 治 委員長

インターアクトクラブ海外研修の
ご案内

卓

話

「和歌山の文化遺産：有吉佐和子」



和歌山大学 教授
ガブラコヴァ・デンニツァ さん

有吉佐和子(1931-1984)は、長い歴史のスパン及び世界的な視野で和歌山という地域を自身の作品で再現しています。文学は教育カリキュラムにおいて姿が薄くなっている現在、有吉佐和子の作品から文化・社会・環境について学ぶものが多いです。とりわけ優れている作品として『紀の川』(1959年)を取り上げることができます。

1950年代は日本において、戦後の「経済的な離陸」(青木保)を背景に「日本回帰」、即ち日本の伝統を見つめなおす動きが見られます。有吉自身の言葉によると、「…力を持っている伝統を掘り下げるの方が大事なので、伝統に対して覆さなければいけないという考え方を私はもちません。覆すことより、そこから何かを育むことが、もっとたいへんなような気がします」。

創造的な意味での「日本回帰」という流れの中に『紀の川』

という小説を位置づけることができます。小説は、三世代の女性の生き方を描きつつ、明治・大正・昭和という歴史的な発展を、川のイメージに重ねて語っています。しかし、その語りの特徴は、女性の立場における伝統と近代化のせめぎ合いが、地方と都会の間の常に揺れるような緊張関係の中に埋め込まれ、和歌山の地方政治における倫理的な態度を持つ男性登場人物との対話の中で成立しているところにあります。

小説のラスト・シーンは、和歌山城の天守閣に設置された望遠鏡から見える工場の煙突の向こうに広がる海の景色が有吉佐和子の分身でもある登場人物華子を感じさせる場面です。近代化と開発を受け入れつつ、相対化しつつ、独自の価値観を貫く和歌山の姿でしょう。



(左から)紹介者の紀委員長、
ゲストのデンニツァさん、林会長

第3回 創立90周年実行特別委員会 開催

2026年9月29日(火) 例会終了後
於：サンクシェール



「第22回 食文化研究会 総会」開催!

2026年9月26日(土)
於：魚介専門イタリアンバルNAVE

